



ゆくて遥かに

平成31年4月8日(月)

第53号

長野県松本深志高等学校長

平成31年度(令和元年度)入学式挙行(4月3日)

今年度の新入生は322名、用意した保護者490席はすべて埋まり、会場の講堂は立錐の余地也没有。昭和の時代までは、深志の学校生活は講堂で始まり、講堂で終わる、と言われていました。平成に入り、様々な事情により、卒業式を大体育館で行うようになりましたが、入学式は変わらず講堂で行っています。登録有形文化財であり、小林有也松本中



学初代校長の「起居有禮」の扁額が見守る、由緒ある

講堂です。吹奏楽部の演奏と拍手の中、定刻どおり新入生が入場が始まり、国歌斉唱の後、入学式の最も重要な手続き、入学許可を宣言しました。新入生の宣誓は1組の青木さん。「自治の精神を心に刻み、共に尊重しあい高めあうこと」をし



準備が整い新入生を待つばかりのホームルーム教室

っかりと宣誓。校長式辞では、「私たちは将来を見通す

ことが困難で正解のない時代を迎えています。解決が難しい課題に対し、基本的な知識をもとに、思考力・判断力・表現力を身に付け、その上で、主体的に多様な他者と協働して最善の解あるいは多くの人々が納得できる解を見つけ、行動していく力が求められます。これから必要になる力を育成するためにも、授業を中心に据えながら、本校の学校風土の中に蓄えられている全てのメッセージを全身でしっかりと受け止



冷え込んだため、早朝からジェットヒーターを

めていってほしいと思います」「皆さんは今日から深志生です。今まで皆さんが見てきた深志高校は、先輩たちが築いてきた先輩たちの深志高校です。皆さん自身の深志高校はまだどこにもありません。今日からは皆さんが、ここにいる仲間とともに、自分たちの力で日々、皆さん自身の深志高校を築き上げ、作り上げていってください」と激励しました。井上同窓会長、柳澤PTA会長、保護者代表の小林様からも、それぞれ心のこもったご挨拶をいただき、最後は応援団管理委員会(通称「応管(おうかん)」、先導による校歌斉唱。5番まで高らかに歌い上げ、式は滞りなく終了しました。新入生の皆さんのこれからの高校生活の充実と大いなる活躍を心より期待しています。

舞装に新兵器(3月30日~31日)

4月1日に登校すると、既に講堂の入学式準備はほぼ整っていました。これ



は舞台装置設置委員会（通称「舞装（ぶそう）」）によるものです。30日から31日にかけて、講堂の目張り、シートや幕の取り付け、椅子並べ等の作業を行ってくれました。舞装とは、生徒会行事で発表する舞台及び関係機材を自分たちで製作・設置する団体で、舞台発表する団体の部員がほぼ自動的に所属します。舞装大将（今年は3年の水岸くん）が率いる舞台装置設置のプロ集団。今回、目張りの新兵器（写真）が登場し、作業の効率化も図られたようです。戦前から存在したと言われる舞装、深志の自治を体現している団体の一つで、縮小とんぼ祭に向けて更に作業は続きます。

対面式そして歌の練習へ（4月4日～5日）

1年生と2・3年生が初めて顔を合わせる対面式は応管主催。入学式翌日の朝一で大体育館において行われました。若干の冷え込みが残る中、先輩から新入生に、新入生から先輩に、それぞれメッセージや質問等が発せられました。その内容について年配者目線の感想を述べることは避けます（生徒会行事は深志の生徒一人ひとりの

自治への意識の総和として、自発的に作り上げていくべきものですから）が、いつもながら応管の仕切りは立派でした。昔はもっと荒っぽい式だったと記憶していますが、今風のスマートで和やかな雰囲気の中で先輩たちとの初対



面は終了。そして、翌日の放課後からは同じ応管による歌の練習が始まりました。

その他の話題をいくつか

★ 今年度初の授業が6日から始まりました。二日間テストがあったため、昨年度に続いて土曜日からの本格始動です。

★ 学校の桜がようやく開花しました。右の写真は4月6日、学校東側大体育館横にある桜の木。今年は地域の方々に「敷地内に入って桜をお楽しみください」と呼びかけています。



今週の予定（A1）

日	曜日	行 事 等	その他(主に校長動向)
8	月	短縮 60 分授業 心電図 (1年) 歌の練習 学年会	
9	火	短縮 60 分授業 歌の練習	中信地区校長会
10	水	職員会	
11	木	3年写真撮影	校長研修
12	金	縮小とんぼ祭 短縮 55 分授業	
13	土	縮小とんぼ祭	
14	日		
15	月	(B1) 健康診断 (3年) 学年会	